Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

2月号—No.262
2017.1.25
（毎月1回25日発行）

【芥子色（からしいろ）】和辛子のような鈍い黄色。

カラシナの種子を粉末にして練ったのが和辛子。カラシナは菜の花と同じアブラナ科の植物で、油炒めやお浸しなどにする野菜としてお馴染み。ちなみにタカナはカラシナの仲間で、洋辛子（マスタード）に用いるのはシロカラシの種子。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
平成28年度「リージョナルシアター事業」報告
財団からのお知らせ……4
平成29年度「公共ホール音楽活性化事業」公開プレゼンテーション開催のお知らせ／平成27・28年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」広島セッション終了報告
今月の情報……5
地域通信／アーツセンター情報
制作基礎知識シリーズ Vol.39……10
日本財団 遺贈寄付サポートセンター　設立の背景と活動概況
今月のレポート……12
東京都立川市　立川シアタープロジェクト『音楽劇 アラビアンナイト』

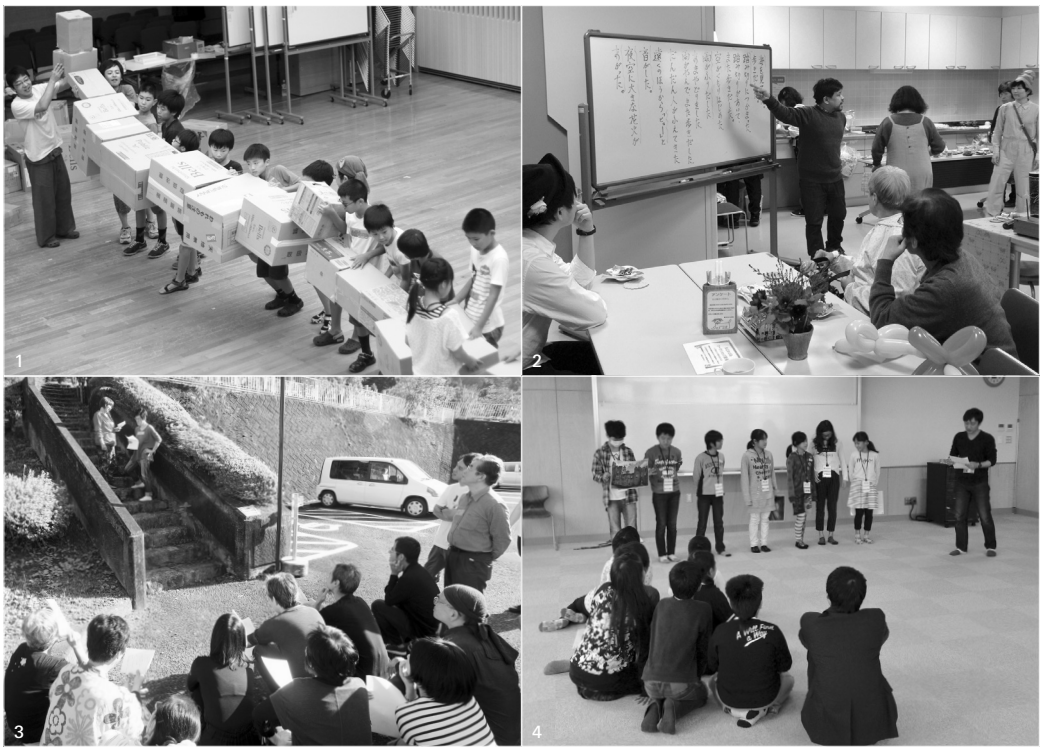
発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

●リージョナルシアター事業

さまざまな演劇的手法でコミュニティとの交流を試みる

平成28年度

リージョナルシアター事業 報告



地域創造では、演劇の表現者(演出家)を公共ホールに派遣し、小学校へのアウトリーチや演劇の手法を使ったワークショップ(以下、WS)を実施する「リージョナルシアター事業」を実施しています。今年度は、静岡県川根本町(川根本町文化会館)、愛知県春日井市(文化フォーラム春日井/春日井市民会館)、兵庫県尼崎市(あましんアルカイックホール)、福岡県大野城市(大野城まどかぴあ)、熊本県長洲町(ながす未来館)の5地域で開催します。今回は、すでに終了した4地域の模様についてご紹介します。

●カフェに集う高齢者に着目～大野城まどかぴあ

2016年に20周年を迎えた大野城まどかぴあは、大小ホール・図書館・生涯学習センター・男女平等推進センター等を有する多目的複合施設です。ホールでは、地域の演劇人と連携した事業やプロデュース公演を手がけてきましたが、「多様な市民が行き交う施設として、これまでアプローチしていない対象に向けた取り組みを考えたい」(ホール担当者・飯田愛弓さん)と、リージョナルシアター事業に参加しました。

派遣アーティストは、音楽や舞台美術・衣裳などのビジュアルを生かした演劇づくりで定評のあるニットキャップシアターを主宰するごまのはえさんです。アーティストと相談しながら、小学校へのアウトリーチのほか、市役所職員や高齢者など多様な対象に向けたアクティビティが行われました。

なかでもユニークだったのが、コミュニティセンター(公民館)で毎月1回開催されているカフェに集う“高齢者仲間”を対象にしたWSです。リージョナルシアター事業では現地下見などを含めて3回のアーティスト派遣が行われますが(事業の流れ図参照)、1回目からアーティストと担当職員がカフェに参加して交流し、3回目の派遣でWSを行いました。ごまさんは、「カフェの空間と時間を壊すようなことはしたくない」と、始まりと終わりの時間を設定せず、日常の時間の流れの中に溶け込むWSになるよう工夫しました。

写真

1:有門正太郎さんによる遊びを考えるワークショップ(春日井市)

2:ごまのはえさんによるコミュニティセンターでのワークショップ(大野城市)

3:田上豊さんによる屋外でのワークショップ発表の様子(川根本町)

4:福田修志さんによる小学校でのワークショップ(尼崎市)

●リージョナルシアター事業に関する問い合わせ
芸術環境部　戸舘・小林
Tel. 03-5573-4124

WSの内容は、物語に合わせて民族楽器を使って音づくりをするという、誰もが参加しやすいものです。最初は、東南アジアやアフリカの珍しい楽器を手に取りコーヒーを飲みながら団欒していた高齢者の方々が、自然に「この楽器はどうやって演奏するの?」と質問。いつしか“雨”“踏み切り”“花火”といったお題に対して、いくつものテーブルで音づくりのWSが始まっていました。「ホールのロビーなどでもこうした試みをやってみたい」と飯田さん。今回のWSは、ホールが新たな取り組みを始めるきっかけになったのではないでしょうか。

●関係者の理解を深める取り組みも重要

文化フォーラム春日井/春日井市民会館に派遣されたのは、北九州を拠点に活躍する俳優で演出家の有門正太郎さんです。リージョナルシアター事業の実施が夏休み期間に重なったことから、ホールを会場にしたアクティビティが行われました。子どもたちが創意工夫しながら遊びを考えるプログラムや、不思議な形を探しながらホール施設を探検することで非日常的な風景を発見するプログラムなど、演劇表現のベースにある人と一緒に想像力を使って遊ぶWSが展開されました。

SLが走る大井川鐵道で有名な人口7千人余りの川根本町に派遣されたのは、教育現場でのWSや参加型演劇を積極的に行っている田上豊さんです。その経験を生かし、高校生や一般を対象とした3つの公募型WSに加え、学校教員向けの研修も行われました。アウトリーチを継続するには受け入れ先の教員の理解が不可欠ですし、演劇WSは教員のコミュニケーションスキルの向上や人の見方に対する想像力を広げることにも繋がります。「今後も教員研修に演劇を取り入れることを提案したい」と担当職員の服部了士さん。

あましんアルカイックホールでは、長崎を拠点にしたF's Companyを主宰する福田修志さんが、高校演劇部や合唱団を対象に演劇的手法を用いたコミュニケーションWSを行いました。また、小学校へのアウトリーチでは、教育委員会、行政等の担当者を招き、演劇WSを学校教育の現場で活用している現場を視察していただきました。「外の方々だけではなく、ホール職員にとっても演劇WSの魅力と意義を知る素晴らしい体験になった」とホール担当職員の山田勝夫さん。演劇の可能性を関係者にインリーチする良い機会になったのではないでしょうか。

●

リージョナルシアター事業は、地域のニーズを踏まえ、派遣アーティストの想像力・発想力・人間力という演劇のもつ力を活用し、地域コミュニティの繋がりを活性化していく事業です。2月には、本年度最後となる事業が、富士見市文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督でもある演出家の多田淳之介さんによって熊本県長洲町で実施される予定です。子どもたちを対象にホールを日常的な“遊び場”として機能させるプログラムが企画されていますので、お近くの方はぜひお立ち寄りください。

なお、平成30年度の参加団体募集につきましては、後日詳細をお知らせいたします。多くの応募を心よりお待ちしております。

●平成28年度リージョナルシアター事業

◎参加館

•川根本町文化会館(静岡県川根本町)
2016年7月2日、3日/10月1日〜3日/10月7日〜11日
•文化フォーラム春日井/春日井市民会館(愛知県春日井市)
7月14日、15日/8月9日〜14日
•あましんアルカイックホール(兵庫県尼崎市) 6月15日、16日/10月5日〜8日/11月28日〜12月1日
•大野城まどかぴあ(福岡県大野城市)
5月9日、10日/6月7日〜10日/11月8日〜11日
•ながす未来館(熊本県長洲町)
9月1日、2日/2017年2月4日〜7日/2月25日〜28日

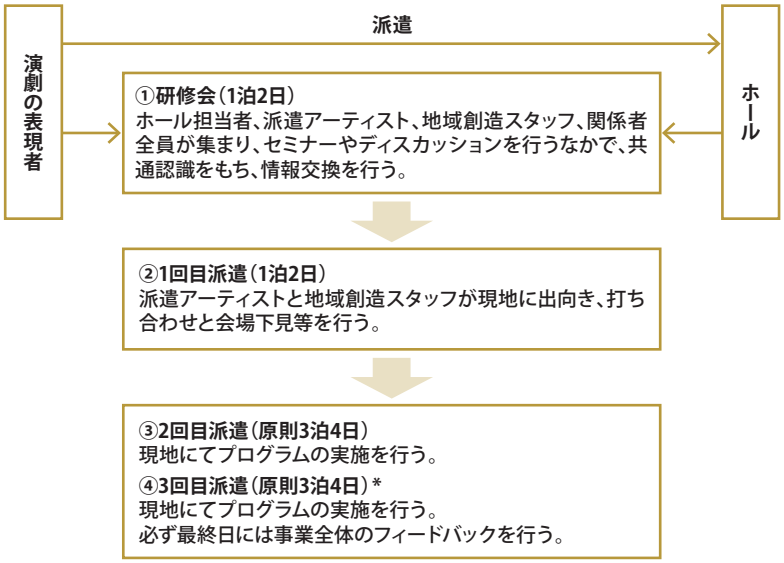
◎派遣アーティスト

•多田淳之介(演出家・俳優/東京デスロック主宰)
•田上豊(劇作家・演出家/田上パル主宰)
•有門正太郎(演出家・俳優/有門正太郎プレゼンツ代表)
•福田修志(劇作家・演出家/F's Company代表)
•ごまのはえ(劇作家・演出家・俳優/ニットキャップシアター代表)

＊アドバイザー

•内藤裕敬(劇作家・演出家/南河内万歳一座座長)
•岩崎正裕(劇作家・演出家/劇団太陽族主宰)

リージョナルシアター事業の流れ



＊2回目派遣が5泊6日になった場合は、3回目派遣はなし。

財団からのお知らせ

●平成29年度「公共ホール音楽活性化事業」公開プレゼンテーション開催

公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）の平成28・29年度登録アーティスト7組による公開プレゼンテーションを開催します。これは、平成29年度におんかつを実施する団体向け研修プログラムの一環として実施するものですが、事業の実施を検討しているホール担当者や関心のある方にも公開されます。

プレゼンでの演奏やトークを通して、おんかつの枠組みである学校や福祉施設等での地域交流プログラム（アウトリーチ等）と、ホールでのコンサートに各アーティストがどのような姿勢で臨むのかを知ることができる絶好の機会です。観覧をご希望の方は、3月号（2月25日発行）の地域創造レターに同封しますチラシにてお申し込みください。

おんかつ公開プレゼンテーション概要
[日程]平成29年4月18日（火）15：00開演（予定）
[会場]Hakujuホール
（東京都渋谷区富ヶ谷1-37-5）
[内容]各組20分程度のプレゼンテーション
[出演]平成28・29年度登録アーティスト（7組）
岩崎洵奈（ピアノ）、坂口昌優（ヴァイオリン）、加藤文枝（チェロ）、福川伸陽（ホルン）、喜名雅（テューバ）、ヴィタリ・ユシュマノフ（バリトン）、塚越慎子（マリンバ）

●平成27・28年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」広島セッション終了報告

平成16年度より始まった本事業は都道府県と連携し、地域での演奏活動を通して創造性豊かな地域づくりを目指す事業で、15回目の開催地となった広島県では（公財）ひろしま文化振興財団を中心に、広島市、呉市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市の6市が参加し、事業を進めてきました。

オーディションにより選出された、Lumie Saxophone Quartet（サックス四重奏）、ピエーレ弦楽四重奏団、トリオ・ノート（ピアノトリオ）の3組が広島県へ派遣されることとなり、2016年6月に広島県民文化センターで合宿形式の研修を実施。そこで45分間のアウトリーチプログラムをつくり上げ、熊野町、坂町の小学校を訪問し、アウトリーチを行いました。どのグループも試行錯誤を繰り返し、夜中までプログラムづくりに取り組んでいる姿が非常に印象的でした。

9月～12月の間には担当する2市（Lumie：三次市・東広島市、ピエーレ：呉市・庄原市、トリオ・ノート：広島市、廿日市市）でそれぞれ小学校でのアウトリーチ6回とホールでのコンサートを開催。いずれも好評を得ましたが、それに満足することなく、子どもたちと触れあうなかで感じた課題などを各メンバーはもちろん、担当コーディネーターや地域の担当者とも議論を交わし、プログラムの内容をどんどん高めていきました。

集大成となるガラコンサート（広島県民文化センター）では、各市を訪れた3組が一堂に会し共演。オープニングの『シンコペーティッド・クロック』では、軽快なウッドブロックの音を皮切りにアーティストたちが続々と登場し、初めて派遣アーティスト11名全員が集合。続いて各組ごとに演奏を披露し、アンサンブルの魅力を伝えました。エンディングの『リベルタンゴ～じゃけえ！サプライズ版～』では、リベルタンゴだけではなく、各楽器の特徴を活かした広島ならではのサプライズ曲も。クライマックスには、各地域でお世話になった担当の皆さんが応援団として登場し（もちろんカープのユニフォームを着て！）、ステージを盛り上げました。

今回、本事業を実施した各地域の繋がりを種に、連携による大きな展開も期待でき、広島県でのさらなる音楽事業発展の可能性を感じることができました。

上：アウトリーチの様子（トリオ・ノート）／下：ガラコンサート

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部　阿比留
Tel. 03-5573-4069

●平成27・28年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」広島セッション
[主催]（公財）ひろしま文化振興財団
[チーフコーディネーター]中村透
[コーディネーター]花田和加子、菱川浩二、加藤直明
[アシスタントコーディネーター]丹羽梓、三浦幸恵、桜井しおり
[派遣アーティスト]
•トリオ・ノート（ピアノトリオ）
大野真由子[Pf]、高瀬真由子[Vn]、田辺純一[Vc]
•ピエーレ弦楽四重奏団（弦楽四重奏）
小林沙紀[Vn]、伊師裕人[Vn]、正田響子[Va]、野村杏奈[Vc]
•Lumie Saxophone Quartet（サックス四重奏）
住谷美帆[S.sax]、戸村愛美[A.sax]、中嶋紗也[T.sax]、竹田歌穂[B.sax]
[実施日程]
•シンポジウム：2015年8月26日
•全体研修会：2016年4月26日
•アーティスト研修：6月26日～7月1日
•市町村公演事業（派遣アーティスト）
東広島市：9月28日～10月1日／三次市：11月16日～19日（Lumie Saxophone Quartet）
廿日市市：11月16日～19日／広島市：11月30日～12月3日（トリオ・ノート）
庄原市：11月30日～12月3日／呉市：12月6日～9日（ピエーレ弦楽四重奏団）
•ガラコンサート：12月17日

◎問い合わせ
芸術環境部　佐藤・水上
Tel. 03-5573-4185

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。☜マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　宇野・小川

●2017年4月号情報締切
3月1日(水)

●2017年4月号掲載対象情報
2017年4月～6月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●札幌市 ☜

札幌芸術の森(札幌市芸術文化財団)
〒005-0864　札幌市南区芸術の森2-75
Tel. 011-592-4125　清原健
https://artpark.or.jp/

ビッグバンドジャズ×ダンス！Forest of New Arts

世界的なジャズピアニストのデビッド・マシューズを音楽監督に迎え、地元アーティストによるオリジナルのビッグバンドを編成するとともに、ジャズとさまざまなジャンルの芸術を融合させたステージの創造を試みる総合芸術公演。2年目となる今年度は、新たに市民参加型のダンスワークショップを実施。その参加者も含めた総勢70人以上による大編成のダンスと、ビッグバンドジャズとのコラボレーションによる集大成公演を行う。
[日程]2月17日
[会場]札幌市教育文化会館

●岩手県盛岡市

もりおか町家物語館
〒020-0827　盛岡市鉈屋町10-8
Tel. 019-654-2911　工藤雅弘
http://machiya.iwate-arts.jp/

したまち小劇場祭2017

もりおか町家物語館をはじめ、盛岡町家三氐亭などの近隣施設が連携し、演劇や音楽などのさまざまな公演を開催。鉈屋町界隈の歴史と風情ある街並みの中で、歴史的建造物や非近代的な劇場とふれあうことにより、市民の文化芸術への関心の創出を目指す。今年は、宮沢賢治生誕120年を記念し、賢治の青春時代をテーマとした公演を行う。
[日程]2月17日～3月20日
[会場]もりおか町家物語館

●岩手県遠野市

遠野物語ファンタジー制作委員会
〒028-0524　遠野市新町1-10
Tel. 0198-62-6191　奥寺悠子
http://www.city.tono.iwate.jp/index.cfm/35,1200,168,215,html

第42回遠野物語ファンタジー『目覚めよ！進尽～未だ忍峠～』

柳田國男の『遠野物語』など地元に伝わる口承民話を題材として毎年開催している市民演劇。出演者も経験者や初参加などさまざまで、原作は公募により決定し、脚本・演出・演奏もすべて市民約350人がつくり上げる。今回は附馬牛町を舞台にした物語で、町の郷土芸能「東禅寺しし踊り」も出演。
[日程]2月25日、26日
[会場]遠野市民センター

第41回遠野物語ファンタジー『お月お星の涙』(2016年2月)

関東

●千葉県館山市 ☜

千葉県南総文化ホール
〒294-0045　館山市北条740-1
Tel. 0470-22-1811　石井朝美
http://www.nanso-bunka.jp/organize/detail.html?id=1966

NANSO舞台芸術創造プロジェクト第17弾　県民参加創作ミュージカル『碧の楽園』

本プロジェクトのために書き下ろされたオリジナル脚本による市民参加型ミュージカル公演。9歳から60歳代までの千葉県民35人が出演する。新進気鋭の脚本家・藤倉梓が脚本を、俳優・演出家としても活躍するtekkanが演出を手がける。1月には県内商業施設で出演者によるアウトリーチ事業も実施。
[日程]2月19日
[会場]千葉県南総文化ホール

●東京都台東区

「したまち演劇祭 in 台東」実行委員会
〒110-8615　台東区東上野4-5-6(台東区文化振興課内)
Tel. 03-5246-1328
http://www.shitamachiengekisai.com/2017/

第7回したまち演劇祭 in 台東

台東区内の7会場を舞台に1カ月にわたり開催される演劇祭。7回目となる今回のメイン会場は、台東区内でも特に下町情緒を感じさせる浅草と上野。公募による劇団の公演のほか、殺陣や「新春浅草歌舞伎」と連携した歌舞伎の体験ワークショップなど、身近に演劇にふれられるプログラムを多数実施。
[日程]1月7日～2月6日
[会場]台東区生涯学習センター、浅草花やしき、雷5656会館、木馬亭ほか台東区内各所

プロの俳優・演出家と区民参加者によるオープニングステージ「久保田万太郎作『年あらそい』」(2017年1月7日)

●東京都大田区 ☜

大田区文化振興協会
〒146-0092　大田区下丸子3-1-3
Tel. 03-3750-1611　淵脇久子
http://www.ota-bunka.or.jp/facilities/plaza/tabid/155/Default.aspx

下丸子×演劇ぷろじぇくと2016 下丸子〔演劇〕ミニミニふぇすた

演劇を身近に感じて根付かせるため、大田区から発信される3年間の演劇プロジェクト。1年目の今年は、「ミニミニふぇすた」と題し、劇団山の手事情社の稽古方法をワークショップ形式で体験し、約3カ月かけて取り組んだ成果の発表と、劇団山

の手事情社の公演『minijam』と併せて発表する。
[日程]1月29日
[会場]大田区民プラザ

●東京都世田谷区
世田谷美術館
〒157-0075　世田谷区砧公園1-2
Tel. 03-3415-6011　矢野進
http://www.setagayaartmuseum.or.jp/

花森安治の仕事―デザインする手、編集長の眼

花森安治(1911～78)は、戦後日本の出版界で一際異彩を放った家庭雑誌『暮しの手帖』の編集長を1948年の創刊時から30年間務めるとともに、装丁家やイラストレーター、コピーライター、ジャーナリストとしても多彩な活躍を繰り広げた。本展では、表紙原画をはじめ約750点の作品や資料によって、花森が戦後日本の社会に問いかけた「美しい暮し」を、彼のデザインや編集術から探る。
[日程]2月11日～4月9日
[会場]世田谷美術館

●東京都国立市
くにたち文化・スポーツ振興財団
〒186-0003　国立市富士見台2-48-1
Tel. 042-574-1515　斉藤かおり
http://www.kuzaidan.com/hall/

朗読×ピアノ×ダンス「マイライフ・マイステージ」

音楽を中心に事業を行ってきた同館主催による、演劇×音楽×ダンスを融合し住民一人ひとりのさまざまな人生エピソードを舞台化する公演。7日間のワークショップを経て20歳代から70歳代までの住民ら10人が共演する。構成・演出・朗読の能祖将夫とともに、ピアニストの竹村浄子、ダンサーの井上大輔、藤井友美が出演。
[日程]2月19日
[会場]くにたち市民芸術小ホール

●横浜市
横浜市芸術文化振興財団
〒231-0001　横浜市中区新港1-1-1　横浜赤レンガ倉庫1号館
Tel. 045-211-1515　中冨勝裕
http://www.yokohama-dance-collection.jp/

横浜ダンスコレクション2017

1996年に始まり、今年で22回目となるコンテンポラリーダンスのプラットフォーム。今年は横浜美術館とも連携し、2016年10月～12月まで開催した企画展「BODY/PLAY/POLITICS」と共通テーマでの作品上演や、アジアのダンスフェスティバルとの協働プロジェクトなど、多彩なプログラムを開催。ダミアン・ジャレ(振付家)と名和晃平(彫刻家)のコラボレーション作品や多田淳之介(演出家)による新作公演も。
[日程]1月26日～2月19日
[会場]横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜にぎわい座

●神奈川県茅ヶ崎市
茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
〒253-0041　茅ヶ崎市茅ヶ崎1-11-1
Tel. 0467-85-1123　杉山貴子
http://www.chigasaki-hall.jp/

Co.山田うん＆茅ヶ崎市民共同製作ダンス公演『かや』

茅ヶ崎育ちのダンサー・振付家である山田うん率いるダンスカンパニーと茅ヶ崎市民による創作ダンス公演。平成17年度からほぼ毎年ダンスのワークショップを実施し、4年ごとに市民と共同でダンスの創作を行っており、今回は3回目の公演となる。

2013年市民参加作品『浜辺の歌』

2017年の茅ヶ崎市制施行70周年にちなみ、Co.山田うん、パーカッショングループ「オルケスタ・ナッジ・ナッジ」、市民の総勢70人が出演する。
[日程]2月26日
[会場]茅ヶ崎市民文化会館

北陸・中部

●富山県富山市
富山県文化振興財団
〒930-0006　富山市新総曲輪4-18
Tel. 076-432-3115　岩田扶紀
http://www.bunka-toyama.jp/

音劇 北前船 ～とやまから新たな鼓動～

富山とも関わりの深い北前船をモチーフとしたオリジナルの舞台上演。和太鼓や三味線、胡弓といった和楽器と洋楽オーケストラ、日本舞踊とバレエという、和と洋が融合した音楽と舞踊の響きに加え、朗読者の声などすべての音が競い合いながら一体化する「音劇」と題した新しい試みを行う。地元アーティストも制作段階から積極的に参画し、出演演奏家としても多く加わっている。
[日程]2月26日
[会場]富山県民会館

●石川県金沢市
金沢芸術創造財団
〒920-0999　金沢市柿木畠1-1
Tel. 076-223-9898　柳井百合子
http://www.kanazawa-arts.or.jp/

第1回 ベストオブアンサンブル in Kanazawa

20周年を迎えた「金沢フレッシュコンサート」が、全国的にも珍しいアンサンブルに特化したオーディション形式のコンサートとしてリニューアル。オーディションを通過した北陸三県ゆかりのアンサンブル6組と、ゲストの「アンサンブル・ノマド」が出演。今後は、アウトリーチや公演への派遣などでアーティストをサポートしていく。
[日程]2月11日
[会場]金沢市アートホール

●山梨県甲府市
コラニー文化ホール
〒400-0033　甲府市寿町26-1
Tel. 055-228-9131　加藤信一
http://shiningk7735.wixsite.com/cinderella-and-rats

ミュージカル『シンデレラ ～ねずみたちのプリンセス～』

山梨大学の学生が自主制作した作品をミュージカルとしてリメイク。脚本・作曲からキャストに至るまでオール山梨で構成され、衣装に地元和紙メーカーのオリジナル素材を使用するなど、地元で演じ続けられる作品を目指す。公演に先立ち、導入部をショッピングモールや小学校で上演し、作品の魅力を広く発信する。
[日程]2月25日、26日
[会場]コラニー文化ホール

ショッピングモールで行われたプレイベント(2016年12月25日)

●岐阜県美濃加茂市
岐阜県教育文化財団
〒502-0841　岐阜市学園町3-42　ぎふ清流文化プラザ
Tel. 058-233-5810　桑原聡
http://www.g-kyoubun.or.jp/jimk/

第21回岐阜県民文化祭・ぎふ文化の祭典　ひだ・みの創作オペラ

平成11年に始まり、今年で21回目を迎える岐阜県の文化の祭典。毎年、県内に伝わる民話などを題材とし、一般公募で募った県内の出演者が演じる創作オペラ。今回は、美濃加茂市の昔話を基にした『龍ヶ淵の姫』と、伊深義民を題材とする『天和の

風』が上演される。
[日程]2月11日、12日
[会場]美濃加茂市文化会館

●愛知県豊橋市
豊橋市まちなか図書館整備推進室
〒440-0897 豊橋市松葉町2-10(豊橋市まちなか活性課内)
Tel. 0532-55-8102 三浦有喜
http://www.city.toyohashi.lg.jp/30888.htm

音楽で広がる本の世界 村上春樹の作品に寄せて

現在豊橋市で計画している「まちなか図書館(仮称)」のプレイベント。図書館設立後を見据えた事業展開の一環として、"図書館(本)×ライブハウス"をコンセプトに開催する。村上春樹作品の朗読や、作品に登場する音楽の解説、生演奏などを聴きながら、小説と音楽の出合いによる新たな世界の広がりを楽しむことができる。
[日程]2月5日
[会場]穂の国とよはし芸術劇場PLAT

●愛知県長久手市
長久手市文化の家
〒480-1166 長久手市野田農201
Tel. 0561-61-3411 寺嶋佳奈
https://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct_bunka_ie.html

長久手市劇団 座☆NAGAKUTE 第29回公演『アゲイン―怪人二十面相の優しい夜―』

1997年に結成、98年に旗揚げした長久手市文化の家を拠点に活動する市民劇団による演劇公演。劇団B級遊撃隊主宰の佃典彦が演出を手がけ、江戸川乱歩の名作「少年探偵団シリーズ」をモチーフに、現代に蘇った怪人二十面相を描く創作劇を、県内から集まった21人の団員でつくり上げる。
[日程]1月28日、29日
[会場]長久手市文化の家

●愛知県知多半島5市5町
知多半島春の国際音楽祭運営委員会
〒470-2555 知多郡武豊町字大門田11(武豊町民会館内)
Tel. 0569-74-1211 松本信太郎
http://chita-haruon.com/

知多半島春の国際音楽祭2017

武豊町で開催していた「武豊春の音楽祭」を2013年から知多半島全域に拡大し、3回目の開催。今回から"国際音楽祭"にリニューアルされ、知多半島の数々の会場で国籍を問わず音楽を楽しむことができる。各市町で民間を主体とした実行委員会を組織し、2カ月にわたり、飲食店、福祉施設などあらゆる会場でコンサートが行われる。プロはもちろん、地域の演奏家やアマチュア音楽家による市民企画コンサートも多数開催される。
[日程]1月28日～3月12日
[会場]知多半島全域

近畿

●滋賀県栗東市
栗東芸術文化会館さきら
〒520-3031 栗東市綣2-1-28
Tel. 077-551-1455 原寛紀
http://www.sakira-ritto.net/

ストーリーライブ『ホームズ×ジャズ』

今年度から始まった、小学4年生から大学生を対象としたプロデューサー体験講座の成果発表公演。今回は、小学生と高校生の2人が公演の企画や広報などを学び、参加者自らが企画した、ジャズコンサートと演劇を合体した新感覚の舞台に取り組む。発表する作品は、関西を中心に活動する演奏家と劇団三毛猫座による、シャーロック・ホームズの短編小説を題材にしたストーリーライブ。
[日程]2月18日
[会場]栗東芸術文化会館さきら

●京都市
Kyoto演劇フェスティバル事務局
〒602-0858 京都市上京区河原町通広小路下ル
Tel. 075-222-1046 上田晶人
http://kyoto-enfes.seesaa.net/

第38回Kyoto演劇フェスティバル

1979年にスタートした京都の冬恒例の演劇祭。関西全域の劇団・人形劇団が集う「公募公演プログラム」や"演劇クロス世代"と題して幅広い世代で楽しめる演劇を集めた「特別企画」、ワークショップなどを開催。また2年後の第40回記念の特別プログラムの先駆けとして、今回のフェスに関係する団体・個人が参加する20分間の予告公演も上演される。
[日程]2月4日～18日
[会場]京都府立文化芸術会館

●大阪府吹田市
吹田市文化振興事業団
〒564-0041 吹田市泉町2-29-1
Tel. 06-6380-2221 日和香
http://www.maytheater.jp/

メイシアター×大阪大学共同事業『あくまでも春』

市民が演劇を通じて交流を深めることを目指して、ホールと大学が連携して実施する市民参加劇。6回目の今年は、オーディションで選ばれた18歳から75歳までの市民20人が出演。吹田市出身の劇作家・横山拓也が出演者から聞き取った高校時代の思い出を重ねながら横山が高校生活を送った1990年代の吹田を描き、わがまちの特徴、良さ、これからについて出演者や観客と共有する。

前回の公演『踊らせて恋』(2016年2月)

[日程]2月18日、19日
[会場]吹田市文化会館メイシアター

中国・四国

●島根県松江市
しまね文化振興財団
〒690-0887 松江市殿町158
Tel. 0852-22-5556 漆谷聖子
http://www.cul-shimane.jp/hall/

島根県民会館耐震リニューアル記念 新春能楽公演

島根県民会館の耐震リニューアルを記念した能楽公演。昨年、日本遺産に認定された「出雲國たたら風土記」のたたら製鉄にまつわる『小鍛冶』や新春にふさわしい演目を上演する。公演前に出演能楽師による鑑賞講座を開催し、初心者にも楽しめる鑑賞ポイントを解説する。
[日程]1月29日
[会場]島根県民会館

●岡山県勝央町
勝央町教育委員会
〒709-4316 勝田郡勝央町勝間田211-1
Tel. 0868-38-1753 赤木茂正
http://www.town.shoo.lg.jp/facility/161

ピアノデュオDuetwoコンサート「輝く未来へまたあした」

ピアノデュオDuetwoが勝央町をイメージして作曲した『またあした』に、町内の小学生が歌詞を付ける作詞プロジェクトが完結。勝間田小学校6年生・勝央北小学校5年生たちと一緒に披露される。映像作家・原寛によるプロジェクションマッピングとのコラボも開催。音楽と映像が融合した幻想的な空間が演出される。
[日程]1月29日
[会場]勝央文化ホール

●広島市

広島市文化財団
〒730-0812　広島市中区加古町4-17
Tel. 082-244-8000　神明恒彦
http://h-culture.jp/

演劇引力廣島 第14回プロデュース公演『広島ジャンゴ』

演出家・蓬莱竜太によるプロデュース公演を継続して実施し、これとリンクしたカリキュラムの演劇学校を実施することで、人材育成やレベルアップを図るプロジェクトの2年目。今回は蓬莱が広島在住の象千誠らと書き下ろした広島弁による西部劇の作品を、オーディションで選ばれた広島をはじめ各地域の演劇人たちと共に制作・上演する。
[日程]2月16日～19日
[会場]JMSアステールプラザ

●愛媛県松山市

愛媛県美術館
〒790-0007　松山市堀之内
Tel. 089-932-0010　長井健
http://www.ehime-art.jp/

生誕140年　杉浦非水　開花するモダンデザイン

松山市出身で、日本におけるモダンデザインの先駆者として高く評価される杉浦非水(1876～1965)。約7,000点の館所蔵品を軸に、三越呉服店での一連の仕事を筆頭としたポスターや、装丁、雑誌表紙などを展示するとともに、スケッチや下絵、写真などにより創作の背景を紹介。

杉浦非水「東洋唯一の地下鉄道　上野浅草間開通」(1927年／愛媛県美術館蔵)

その足跡を詳細にたどることで改めて杉浦芸術の魅力に迫る。
[日程]2月22日～3月30日
[会場]愛媛県美術館

九州・沖縄

●福岡市

福岡舞台芸術施設運営共同事業体、西部ガス興商(株)
〒812-0038　福岡市博多区祇園町8-3(ぽんプラザホール内)
Tel. 092-262-5027　仁田野麻美
http://www.amcf.jp/

キビるフェス～福岡きびる舞台芸術祭～

全国と福岡の舞台芸術、観客、舞台芸術活動の場などを「きびる」(福岡の方言で“結ぶ”の意)ことをテーマに開催する舞台芸術祭。東京から社会性の高い作品を上演するトラッシュマスターズをはじめ3団体を招聘。九州からは育成の観点から選出した2団体の上演を予定。シンポジウムやワークショップ、アフタートークのほか、観客が作品について意見交換する“キビるカフェ”なども行われる。
[日程]2月18日～26日
[会場]ぽんプラザホール、パピオビールーム

●福岡県筑後市

筑後市文化振興公社(サザンクス筑後)
〒833-0047　筑後市大字若菜1104
Tel. 0942-54-1200　久保田力
http://www.sathankusu-chikugo.or.jp/

熊本地震・東日本大震災復興支援事業『小さなひろばの片隅で』

今年で7回目を迎える市民参加型のミュージカル公演事業「ミュージカルナンバーアンサンブル」。今回は、東日本大震災から2年後の2013年に大震災をテーマに制作・上演した作品を、昨年4月に起こった熊本地震や、出演する市民公募のメンバーを元に内容をリニューアルし、復興支援事業として上演する。
[日程]1月29日
[会場]サザンクス筑後

『小さなひろばの片隅で』初演(2013年12月)

●福岡県太宰府市

太宰府市文化スポーツ振興財団
〒818-0125 太宰府市五条3-1-1
Tel. 092-920-7070　鹿毛貴之
http://www.dazaifu-info.or.jp/spo-cul/

史跡のまちの“生”歴史ドラマ『西国一の玉砕戦 岩屋城の戦い』

太宰府市の史実を基にした演劇公演。福岡を中心に活動している劇団池田商会が戦国時代の大友氏と島津氏との合戦「岩屋城の戦い」をテーマに上演した作品『白梅悍馬』を再執筆・再演出し、新しい作品として上演する。関連企画として筑前琵琶のミニコンサートや史跡散歩ツアーも開催。
[日程]2月5日
[会場]プラム・カルコア太宰府

●大分県別府市

ビーコンプラザ
〒874-0828　別府市山の手町12-1
Tel. 0977-26-7111　山下明彦
http://www.b-conplaza.jp/

ビーコンプラザオペレッタ劇場 瓜生島3カ年プロジェクトvol.2

地域に語り継がれてきた昔話「瓜生島」を題材にしたオリジナルのオペレッタを創作するプロジェクト。2年目となる今年は、昨年度創作した合唱組曲『瓜生島伝説』を拡大させて、ソロ・台詞・合唱をそなえた音楽劇を上演。地元の文化団体や伝統芸能団体、芸術大学などの協力を得て、幅広い県民が公演に参加する。
[日程]2月26日
[会場]ビーコンプラザ

●鹿児島県鹿児島市

かごしま教育文化振興財団
〒890-0062　鹿児島市与次郎2-3-1
Tel. 099-257-8111　松永学
http://www.k-kb.or.jp/shibun/

KAGOSHIMA BODY SONIC FES 2017～リズム、ソング&ダンス～

“ごく普通の鹿児島で暮らす人々”が自作楽器やコーラス、ダンス、演劇の各ワークショップに参加し、オペラ『カルメン』をテーマに約6カ月間、舞台表現について深く掘り下げた成果を発表する。各ワークショップの発表を連続して鑑賞することで『カルメン』のストーリーを追いかけることができる。
[日程]2月5日
[会場]鹿児島市民文化ホール

●沖縄県南城市

南城市文化のまちづくり事業実行委員会
〒901-1403　南城市佐敷字佐敷307
Tel. 098-947-1100　照屋千秋
http://sugarhall.jp/

第2回南城市民ミュージカル『太陽の門(ティダヌジョウ)―新ムラヤー版―』

オーディションで選ばれた6歳から68歳までの年齢も出身地も違う出演者が稽古を重ね、上演する市民ミュージカル。今回は「音楽」と「語り」を中心に物語を進める。戦跡スポットのガマ(洞窟跡)で繰り広げられる感動の物語。「ムラヤー」とは地域の公民館、人々の集まる場所を意味する。
[日程]2月18日、19日
[会場]南城市文化センターシュガーホール

アーツセンター情報

●データの見方
情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い
地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター（ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます）の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先
地域創造情報担当　宇野・小川
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●山形県東根市
東根市公益文化施設 まなびあテラス
〒999-3730
東根市中央南1-7-3
Tel. 0237-53-0223
http://manabiaterrace.jp/
◎2016年11月3日オープン

「市民が主役」をコンセプトにした図書館、美術館、市民活動支援センターの3機能を併せもつ複合文化施設。情報・芸術文化の拠点施設としてPFI事業により設置され、都市公園を併設する街の新たなランドマークとして誕生。
図書館は収蔵能力を約20万冊に増やし、落語公演や蓄音機ライブ、人形劇など複合施設ならではの事業を実施。市内初となる美術館は、東北芸術工科大学、筑波大学を芸術アドバイザーに迎え、特別展示室で文学や美術、デザインをテーマに自主企画展を行い、ギャラリーとアトリエは市民への供用を促進する。
開館5カ月前にサポーターズクラブが発足し、中高生から一般の約80人がアートプロジェクトや運営補助に携わる。今後は学芸員、社会教育主事らのスタッフが相談に応じ、市民の情報発信、成果発表をサポートしていく。
[オープニング事業]「いしいしんじのやまがたりトショカン」展ほか
[施設概要]図書館(1,900m²)、市民ギャラリー(400m²)、特別展示場(200m²)、カフェほか
[設置者]東根市
[管理・運営者]株式会社メディアゲートひがしね
[設計者]山下設計仙台支社

●福島県白河市
白河文化交流館コミネス
〒961-0075
白河市会津町1-17
Tel. 0248-23-5300
http://www.cominess.jp/
◎2016年10月23日オープン

これまで市の芸術文化の拠点であった白河市民会館が老朽化および震災で被災したことにより、白河市文化センターと統合する形で、ユニバーサルデザインや耐震化などに対応した施設として移転・リニューアルオープン。音楽を主とした多目的多機能の大ホールと、平土間・段床・劇場形式に転換可能な小ホール（大・小ともにプロセニアム形式）、共通の楽屋群のほか、オープンスペースの「カギガタモール」やキッズルーム、ミーティング室などが設けられた文化施設となっている。
白河藩主松平定信公の精神を受け継いだ「市民共楽」を基本理念に掲げ、新たな芸術文化の創造拠点として、アーティスト派遣事業や市民参加型の事業に取り組むほか、市民ボランティア組織の設立など、より地域に密着した活動を展開していく。
[オープニング事業]小林研一郎指揮ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団白河公演
[施設概要]大ホール（最大1,104席）、小ホール(321席)、練習室1・2（30.5m²・60.6m²）、キッズルーム、ミーティング室ほか
[設置者]白河市
[管理・運営者]NPO法人カルチャーネットワーク
[設計者]株式会社日本設計

●神奈川県大和市
大和市文化創造拠点シリウス
〒242-0016
大和市大和南1-8-1
Tel. 046-263-0214
http://www.yamato-bunka.jp/
◎2016年11月3日オープン

©エスエス東京 加藤俊彦

「心に響く・心が躍る・心をつなぐ」を統一基本理念とし、少子高齢化の時代に対応して駅の至近に整備された複合文化施設。
一体的な管理運営を行うため、指定管理者と行政による協議組織を設置し、管理・運営は指定管理者6社による共同事業体「やまとみらい」が担う。今後はプロムナードの活用や商業施設とのタイアップなど、多様な施設と連携したシンボリックなイベントを実施していくほか、広報媒体も統一し、利用者の利便性を向上するとともに施設の情報を広く発信していくことを目指す。
また高い音響性能を備えたホールなどを有する「やまと芸術文化ホール」では、質の高い芸術鑑賞機会を提供するほか、大和ゆかりの芸術家の活動支援、体験型事業や人材育成事業なども実施していく予定。
[オープニング事業]シリウスへようこそ（コンサート、展示、講座など）
[施設概要]やまと芸術文化ホール（メインホール（1,007席）、サブホール（272席）、ギャラリー、マルチスペースほか）、図書館、生涯学習センター、屋内こども広場
[設置者]大和市
[管理・運営者]やまとみらい
[設計者]佐藤総合計画＋清水建設

●制作基礎知識シリーズ Vol.39「日本財団 遺贈寄付サポートセンター」

「遺贈寄付」により社会貢献活動を推進

制作基礎知識シリーズ Vol.39

日本財団 遺贈寄付サポートセンター設立の背景と活動概況

講師　山名尚志
（株式会社文化科学研究所代表）

●日本における「寄付金」社会の動向

個人や企業の善意に基づいた寄付による非営利の自由な活動が活性化することで、社会はより多元的で寛容なものになるのではないか。1980年代後半、米国の寄付社会をモデルにこうした考えが日本社会でも広まり、1990年には経団連の「1%（ワンパーセント）クラブ」が設立された。ちなみに、同年には芸術文化を支援する企業メセナ協議会も設立されている。

当時、課題となっていたのが、こうした寄付を受け入れ、社会貢献活動を行う受け皿の法的整備だ。米国では、税制優遇を受けられる非営利法人が、内国歳入庁（IRS）に届け出るだけで簡単に設立できた。しかし、日本では、1896（明治29）年の民法制定以来続いてきた、旧態依然の財団と社団しかなく、その設立や活動の自由は極めて制限されていた。

この状況に風穴を開けたのが、阪神・淡路大震災のボランティア活動を契機に、1998年に民法34条の特別法として成立した「特定非営利活動促進法（NPO法）」だ。2006年には公益法人制度を抜本的に見直す民法34条に代わる関連3法が成立。自由で多様な非営利活動を拡大していく法的な基盤が整備された。

一方、寄付者の動向はどう変わったのか。2009年には関係者が発起人となってNPO法人日本ファンドレイジング協会が設立され、現在、「2020年、善意の資金10兆円」を掲げて推進活動を展開している。同協会が発行している「寄付白書」によると、2014年の日本の個人会費・寄付金総額は、1兆538億円。米国の寄付金総額が2015年で3,732.5億ドル（1ドル114円で42兆4,479億円）(*1)であるのと比較すると、GDP規模（2015年で米国は日本の4.4倍）の差を踏まえても、いかにも少ない。こうした中で新たに注目されているのが、自らの遺産を法定相続人にそのまま相続させるのではなく、「遺言書」により残したいところに残すという「遺贈」だ。

●日本財団　遺贈寄付サポートセンターの立ち上げ

その遺贈により社会貢献活動を活性化しようと、日本財団が2016年4月1日に開設したのが、「日本財団遺贈寄付サポートセンター」（以下、サポートセンター）である。日本財団は、「よりよい社会のために、新しい仕組みを生み出し、変化を引き起こす、そのアイデアと実践＝ソーシャル・イノベーション」を掲げ、「みんながみんなを支える社会」の実現を目指し、さまざまな支援プロジェクトを展開してきた。特に東日本大震災以降、いち早く目標額300億円の「震災復興支援特別基金」を立ち上げ、文化芸術ジャンルでは事業指定寄付により「地域伝統芸能復興基金」を設置し、流出した民俗芸能の道具・衣裳などの支援を行うなど、寄付による社会貢献活動を牽引してきた。

今回のサポートセンター設立のきっかけにも東日本大震災が関わっている。日本財団では、2005年から遺贈寄付を受け入れ、年間100件程度の問い合わせがあったが、震災を境に相談が急増。また、2011年に匿名の女性から1億5,000万円の遺贈(*2)の申し入れもあり、専門家チームによる相談窓口の必要性を痛感。一方、日本ファンドレイジング協会、あしなが育英会、日本盲導犬協会や専門家等と「遺贈寄付推進会議」(*3)でも研究を重ね、日本財団としてサポートセンターを設立した。

2016年3月には、日本財団として全国40歳以上の男女にインターネットによる「遺贈に関する意識調査」（有効回答2,521）を実施。その結果、4.6%が「遺贈したい」と回答し、「興味関心がある」を含めると30.9%に遺贈の意向があることが明らかとなった。また、遺贈目的としては、「貧困家庭の子どもの教育支援」（39.4%）、「難病で苦しむ子どもと家族の支援」（37.8%）、「災害時の緊急支援や復興支援」（30.4%）が多く、「地域再生や地方創生に関わる活動」（11.2%）や「学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動」（10.6%）にも1割程度が関心を寄せていた。一方、「遺贈」に不可欠な「遺言書」については、58.0%が準備は必要だと思うとしながら、全体の3.2%しか準備をしていないことも明らかになった。

また、終活に関して「家族や友人とは話し

●日本財団 遺贈寄付サポートセンター
https://izo-kifu.jp/

●自筆遺言書作成キット
上記サイトから無料申し込みが可能。
https://izo-kifu.jp/present

＊1 「Giving USA 2016」より。

＊2 匿名女性の遺贈は、ミャンマーのヤンゴン市内の知的障害者向け施設建設費に充てられ、知的障害者および指導者のトレーニング事業が行われている。

＊3 「遺贈寄付推進会議」は、その後、全国レガシーギフト推進検討委員会を経て、2016年11月に遺贈寄付の相談・紹介・受入れの全国的なプラットフォームである「全国レガシーギフト協会」に改組。
https://peraichi.com/landing_pages/view/legacygiftassociation

にくい」と回答する人が30.3％と高く、「無料で相談できる場所があれば相談してみたい」(23.7％)、「気軽に相談できる場所や人があれば相談してみたい」(22.3％)、「無料でいろいろな相談にのってほしい」(18.4％)など、家族や友人以外での相談を求める回答が多くあった。

こうしたアンケート結果を踏まえて立ち上げたのが、電話やインターネットにより気軽に「無料相談」をできるサポートセンターだ。また、遺言の普及を目指して、1月5日を「遺言の日」に制定するなど、キャンペーン活動をスタートした。

●サポートセンターの活動

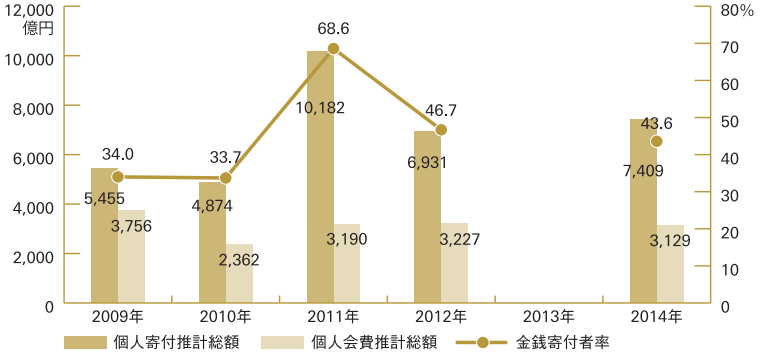
サポートセンターは、現在のところ7名の電話相談員、税理士や弁護士などの専門家でチームを構成し、運営されている(必要に応じて外部専門家と連携)。日本財団への遺贈では、「貧困家庭の子どもの教育支援」「難病で苦しむ子どもと家族の支援」「災害時の緊急支援」「開発途上国の医療・教育支援」「開発途上国の障がい者支援」のほか、冠基金(＊4)の設立など遺贈先・終活などにまつわるさまざまな相談に応じている。サポートセンター開設に伴い、4月1日に新聞全面広告で周知したところ、大きな反響があり、2017年1月10日現在の問い合わせ数は、電話で420件強、ウェブで80件強の計514件だった。

昨年9月までの問い合わせ(計480件)の相談内訳は、「遺贈・寄付」(162件)、「相続全般」(72件)、「遺言書」(71件)、「不動産の処分・売却など」(49件)、「家族や親族との関係性」(46件)となっており、遺贈先の相談よりも終活そのものについての相談が多数を占めた。遺贈の性格上、問い合わせがすぐに寄付に繋がるわけではない。さまざまな相談を経て、遺言書を作成し、相談者が逝去されてから初めて遺贈が具体化する。今後について、サポートセンターの高木萌子さんは、「相談者との信頼関係を構築し、遺贈先の社会貢献活動の現場を視察していただくなどの理解を深めながら、無料相談から遺贈への流れを強化していきたい。また、遺贈者のための会員組織など、新たな仕組みも考えていければ」と話す。

法定相続人がおらず、国庫に回収される遺産は年間300億円にも上る。今後の高齢者の増大などを踏まえると、遺贈可能な遺産の規模はさらに大きくなる。このお金を、本人の確かな遺志に基づき、資金を必要としている社会貢献活動とうまくマッチングできれば、もうひとつの新たな社会システムになるに違いない。

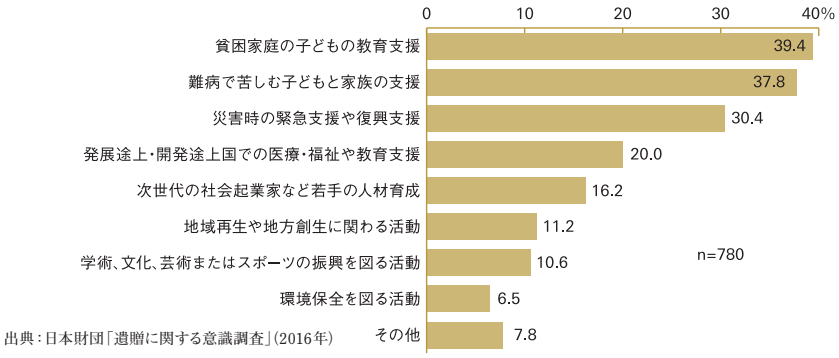
＊4 寄付者の名前等を自由に名称を決められる基金。使途は、寄付者が希望した分野の社会貢献活動に使用する。原則100万円以上の寄付で設置。

図1 個人寄付総額・会計総額・寄付者率の推移



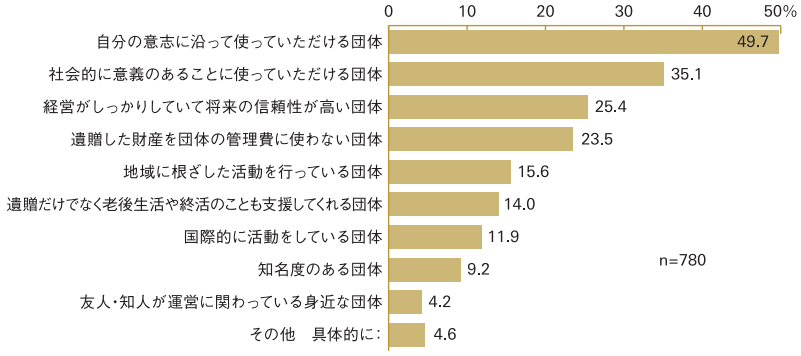
注：2013年は調査なし。2011年は震災関係の寄付(5,000億円)を含み、金銭寄付者率も震災関係以外の寄付者率(29.4％)を含む。
出典：日本ファンドレイジング協会『寄付白書2015』

図2 どのような目的・使途に対して遺贈をしたいか(複数回答)



出典：日本財団「遺贈に関する意識調査」(2016年)

図3 どのような団体に遺贈したいと思うか(複数回答)



出典：日本財団「遺贈に関する意識調査」(2016年)

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

東京都立川市
立川シアタープロジェクト
『音楽劇 アラビアンナイト』

『音楽劇　アラビアンナイト』
写真提供：たちかわ創造舎

●たちかわ創造舎
2004年に廃校となった旧多摩川小学校は、06年から「たまがわ・みらいパーク」として市民が中心となり一部を市民活動拠点として活用（現在も継続）。未使用部分を河川敷の立地を生かしたサイクル・ステーションなどを含めた有効活用を目指して、市が民間の運営団体を公募。13年ににしすがも創造舎の運営を手がけるNPO法人アートネットワーク・ジャパンが優先交渉権者に選定され、2年間の準備を経て15年9月にオープン。A棟・B棟・体育館から成り、「インキュベーション・センター事業（アーティストのシェアオフィス事業）」「フィルムコミッション事業（旧校舎を撮影場所としてレンタルする収益事業）」「サイクル・ステーション事業（NPO法人日本自転車環境整備機構が企画・運営を担当）」の3事業を柱としている。「これからは地域交流を創出するコミュニティ・デザイン事業が4本目の柱になっていく」と陽茂弥チーフ・マネージャー。現在、6人の職員と10数人のアルバイトスタッフによって運営されている。
［所在地］〒190-0013　東京都立川市富士見町6-46-1　http://tachikawa-sozosha.jp

●立川シアタープロジェクトpresents
子どもとおとながいっしょに楽しむ舞台vol.1
『音楽劇 アラビアンナイト』
［会期］2016年12月23日、24日
［会場］たましんRISURUホール 大ホール
［台本・演出］倉迫康史（Theatre Ort／たちかわ創造舎チーフ・ディレクター）
［主催］立川シアタープロジェクト実行委員会（立川市・立川市地域文化振興財団・たちかわ創造舎）
＊2017年1月20日～22日には吉祥寺シアター（東京都武蔵野市）でも公演

新宿からJR中央線で26分。人口18万人の立川市は「にぎわいとやすらぎの交流都市　立川」を掲げ、2012年には旧庁舎跡施設を「立川市子ども未来センター」としてリニューアルするなど、既存の資源を有効活用した交流拠点の整備を進めている。

その最新プロジェクトが、旧多摩川小学校を活用し、15年にオープンした「たちかわ創造舎」だ。運営を担っているのが、豊島区の廃校を活用した「にしすがも創造舎」の実績をもつNPO法人アートネットワーク・ジャパンで、16年には立川市・立川市地域文化振興財団とともに「立川シアタープロジェクト」をスタート。12月23日、24日にたましんRISURUホールで上演されたその第1回公演『音楽劇　アラビアンナイト』を取材した。

●

このプロジェクトは、アーティストに活躍の場を提供し、たちかわ創造舎で創り、立川市内のホールやまちなかで上演して地域の賑わいづくりに貢献するというものだ。その中のひとつが毎年クリスマス時期に上演する「子どもとおとながいっしょに楽しむ舞台」シリーズで、演劇鑑賞により世代を超えた豊かな文化体験とコミュニケーションを創出することを目指している。

そのキーパーソンであり、今回の台本・演出を担当したのがたちかわ創造舎チーフ・ディレクターの倉迫康史（Theatre Ort主宰）だ。2007年からにしすがも創造舎で開催されてきた、としまアート夏まつり「子どもに見せたい舞台」シリーズの演出を手がけてきた。今回の『アラビアンナイト』では、舞台中央に巨大なベッドを設置し、そこから俳優たちが飛び出しながら、王妃シェヘラザードが王様に物語を聞かせたように、客席の親子に寝物語として「アリババと40人の盗賊」などのストーリーをパーカッションの生演奏に乗せて伝えていた。1階客席は親子連れで溢れ、2日合わせて約1,300人が来場する盛況ぶりだった。こうした潜在的な観客層の存在について、倉迫は、「市が宣伝に力を入れてくれたお陰だが、1年目でこれほど来ていただけるとは思わなかった」と驚く。

岡本珠緒立川市地域文化課長は、「毎年1本ずつ質の高い作品を創作し、家族揃ってクリスマスに観劇することを立川の風物詩にしたい。そして多摩地区、全国、世界へと発信していきたい」と期待する。

立川市では2015年度に第3次文化振興計画を策定し、「さまざまな文化芸術が息づき、誰もが楽しめるまち」を目標に掲げており、立川シアタープロジェクトもその一環として位置づけられている。「市内ではさまざまな文化活動が行われているが、相互に結びつけて発信できないことが課題だった。演劇は他ジャンル・他分野とも親和性が高い。倉迫さんたちが積極的に交流を図ってくださり、たちかわ創造舎のオープン以降、色々な連携事業が始まっている。市としてもこの流れを推し進め、地域の活性化に繋げていきたい」と岡本課長。

対する倉迫も、「今後は商店街や地元企業などとも連携しながら、まちを劇場化していきたい。たちかわ創造舎という創作環境と上演場所としての街中を繋いで、全世代に演劇を届けたい。たちかわ創造舎が多摩地区の広域拠点になれるよう取り組んでいきたい」と抱負を語る。

立川シアタープロジェクトでは創客にも力を入れており、今回もRISURUホール向かいの子ども未来センターで、11月から4回にわたって「『アラビアンナイトの世界を知る』レクチャー＆ワークショップ」や「出張！放課後シアター『アラジンと魔法のランプ』」を実施し、いずれもほぼ満員となった。ちなみに放課後シアターは、児童文学の名作を大人と子どもに「よみしばい」（＝「読み聞かせ」＋「お芝居」）の形で上演する試みで、たちかわ創造舎で16年6月から毎月1～2度のペースで実施してきた。毎回20～50人の観客が集まり、大人が子どもに観劇を寄付できる「あしながチケット」も発売されている。このチケット制度により、子どもたちは毎回無料で観劇できているという。

都心から少し離れたこの地域で、こうした街ぐるみの取り組みにより演劇文化がどのように根づくのか。これからの展開が楽しみだ。

（横堀応彦）